

康德九年十二月八日

老平 種村中佐 啟

滿洲國基本國策大綱

滿洲帝國政府

軍務課

1216

151

滿洲國基本國策大綱

1217

滿洲國基本國策大綱

第十三 附錄目次

次

第十四 附錄目次

序

第一章 根本方針

第二章 政治綱要

第三章 國體根本義顯揚

第四章 國防態勢ノ整備

第五章 民族協和ノ具現

第六章 外政ノ伸張

第七章 庶政ノ刷新

第八章 民生綱要

第九章 國民ノ鍊成

第十章 厚生ノ伸張

第十一章 勤勞興國ノ實踐

第十二章 勤勞興國ノ實踐

第四章 經濟綱要

第一 統制方式

第二 農業

第三 林業、畜産業及水産業

第四 礦工業

第五 配給

第六 價格

第七 金融

第八 交易

第九 交通

第十 通信

第十一 理水

第十二 都市計畫

第十三 科學技術

滿洲國基本圖

8181

1219

序

我滿洲國ハ建國以來茲ニ本年ヲ以テ正ニ十年ノ歲月ヲ閱セリ國運ノ隆昌國勢ノ伸暢一ニ帝德ノ下民族相協和シ官民戮力以テ建設ニ挺身セル結果ニ外ナラズト雖モ亦悉ク親邦日本ノ仗義ニ倚ラザルハナシ

畏クモ 皇帝陛下曩ニ 建國神廟ヲ建テ 天照大神ヲ奉祀シ國本ヲ惟神ノ道ニ奠メ親邦ノ 天業ヲ奉翼スベキヲ國民ニ諭シ給フ洵ニ感激ニ堪エズ

謹テ帝旨ヲ承ケ國人ヲ舉ゲ國力ヲ盡シテ聖戰完勝ヲ圖ルベク庶政亦此ノ一點ニ集中指向スルノ要アルト共ニ他面國力ノ根本ヲ培養シ國勢ノ劃期的昂揚ヲ期スベキ將來ノ大計ヲ企畫スルハ蓋シ刻下最モ緊要トスルトコロナリ茲ニ時勢ノ變遷ニ即應シ十年ノ治績ニ鑑ミ新ナル構想ノ下庶政ノ更始一新ヲ期シ今後國政ノ嚮フベキトコロヲ明ニシ依テ以テ官民相共ニ恪守スベキ道ヲ開示スル所以ナリ

而シテ以下開示スルトコロハ概ネ今後十年間ニ於ケル施政方策ノ大綱ニシテ緩急其ノ度ニ應ジ之ヲ實施セントスルモ特ニ現下非常ノ時局ニ照應シ先ヅ以テ北邊鎮護ヲ備フ外ト共ニ大東亞戰爭完遂ニ總力ヲ結集セントス從ツテ國民生活ニ於テ一時ノ隱忍ハ克ク耐ユ

154

第一章 根本方針

施政ノ方針ハ左ノ三ヲ以テ其ノ根本ト爲ス

一 國體ノ本義ヲ顯揚シ國家觀念ヲ涵養シ民族協和以テ國家的團結力ヲ鞏固ナラシメン

コトヲ期ス

一 日滿共同防衛ノ本義ニ則リ國防國家體制ヲ確立スルト共ニ國力ヲ大東亞戰爭完遂ニ

結集シ進ンデ大東亞共榮圈必成ニ寄與センコトヲ期ス

一 文教ヲ振興シ産業ノ劃期的開發ヲ圖ルト共ニ勤勞興國ノ民風ヲ作興シ以テ民生ヲ向

上シ國力ヲ培養充實センコトヲ期ス

第二章 政治綱要

強力ナル國防國家體制ヲ確立シテ政府協和會一體トシテ政治力ヲ掲揚施策滲透ヲ徹底
ヲ圖ルニ努ムルヲ以テ

第二 國體の本義顯揚
我國體ハ惟神ノ道ニ淵源シ日本ト永遠ニ互リ一體不可分離ノ關係ニ在ルヲ以テ本義ト

ス
此ノ確固不動ノ國體ヲ本義ヲ中外ニ顯揚シ施政萬般ノ基本トシテ

第三 國防態勢ヲ整備
自滿共同防衛ノ本義ニ則シテ我特殊地位ニ即應シ隘防衛及防共ノ國防國家體制ヲ整備

シ併セテ治安ヲ確保スルヲ期スルモノトシテ

第三 民族協和ヲ具現
國體ノ本義ニ即シテ各民族ノ特質ヲ陶冶伸張シ國家目的ニ從ヒ應能奉公ノ見地ニ基キ

各民族ヲシテ各々其ノ所ヲ得セシメツツ融和團結ヲ圖ルモノトス

第四 東外政ヲ伸張
五

157

大東亞共榮圈各地域特ニ大陸鄰接諸地域トノ連繫ヲ緊密ニシ協力一致以テ大東亞戰爭
ノ完勝ト東亞新秩序ノ必成トヲ期シ彌々益々同志諸國家トノ國交ヲ敦クシテ世界新秩
序ノ建設ニ貢獻スルヲ期ス

第五 庶政ノ刷新具其

凡ソル施策實行ノ成否防懸ツテ行政運営ノ適否國民ノ信倚如何ニ存スルト新ナル國策
遂行ノ緊要性トヲ鑑ミ行政運営並ニ官吏制度ニ刷新ヲ加テ中央地方一體トシテ
任政治ヲ確立及國策ノ的確ナル遂行ヲ期スルモノトス

此ノ行政機構ヲ改革スルハ中央地方ヲ通シ各段階ニ於ケル指導統制力ヲ強化シ其
ノ連繫ヲ一層緊密ナラシメ行政ノ綜合統一化ヲ期シ特ニ總務廳中心主義ノ徹底強化
並ニ圖ヲ併シテ

第三 行政運営方式ヲ改善シ行政事務ノ簡捷効率化ヲ期スルト共ニ特殊會社及特殊團體
ノ機能ヲ強化活用シ官民渾然一體ノ協力體制ヲ確立スルモノトス

第四 官吏練成ヲ強化責任感ヲ透徹綱紀肅正信賞必罰ヲ徹底シ圖リ併シテ待遇ノ改善並
ニ行ヒ以テ其ノ資質ノ向上ヲ期シ官界ノ氣風ヲ作興一新スルモノトス

四 地方行政機能ヲ整備強化スルト共ニ鄰保組織興農會等國策遂行基盤組織ノ指導育

159

成ヲ圖リ且之ガ自興的發達ヲ期スルモノトス

五 警察ヲ刷新且整備シ治安ノ維持ヲ期スルト共ニ行警一致以テ行政ノ實效確保ヲ圖ルモノトス

六 行政對象ノ實體ヲ明確サラシメ政策ノ樹立及其ノ實行ノ公正的確ヲ期スル爲調査機能ヲ強化スルト共ニ特ニ人籍及地籍ノ急速ナル整備ヲ圖ルモノトス

七 財政ハ重點且積極方針ヲ採ルト共ニ租稅ハ國民ノ國家ニ對スル奉公作用トシテ其ノ地位ヲ強化スルモノトス

七

1225

第三章 民生綱要

文教ノ振興ヲ圖リ國民ノ鍊成ヲ強化スルト共ニ文化ノ進展厚生ノ伸暢ニ努メ國民皆勞興
國ノ美風ヲ作興シ以テ國民ノ資質向上國家的團結力ノ鞏化ヲ圖リ併セテ民生ノ長養ヲ期
スルモノトス

第一 國民ノ鍊成

青少年ノ教育及鍊成ニ最重點ヲ置キ國家觀念ヲ涵養シ健全潑刺タル新國民ノ育成ニ努
ムルト共ニ廣ク一般ニ職域鍊成ヲ徹底強化スルモノトス

一 教育ノ振興

(一) 學校教育

(イ) 初等教育ニ重點ヲ置キ其人振興充實ニ努ムルモノトス

(ロ) 中等及大學教育ハ實業教育ヲ主眼トシ大學ニ付テハ特ニ其ノ内容ノ充實ニ重

キヲ置クモノトス

(ハ) 師道教育ヲ刷新充實スルト共ニ教學機能ヲ強化ヲ圖ルモノトス

(ニ) 教育者ノ養成素質向上及待遇改善ヲ圖ルト共ニ教育者尊重ノ氣風ヲ作興スル

160

一〇
（ホ） 學校教育ト各種試驗研究機關及工場鑛山等處有連繫ヲ緊密ナラシムルモノトス

（ニ） 社會教育ハ學童教育ハ實業教育ヲ主トシテ大學ニ付テハ社會教育ノ內容ハ教育ニ準

（イ） 社會教育施設ノ整備充實ヲ圖ルニ共ニ識字運動ヲ積極的ニ行フモノトス
（ロ） 藝文活動ノ輔導並ニ施設ノ整備ヲ圖ルモノトス

（ハ） 各種宗教團體及教化團體ノ活動ハ國家目的ニ即應セシムル如ク之ヲ輔導スル

二 青少年ノ鍛成
中堅國民ノ育成ヲ目途トシ勤勞奉公制度ヲ創設スルト共ニ青少年組織ヲ通ジ其ノ鍛

成ヲ強化スルモノトス
尙青年自興運動ノ健全ナル發展ヲ圖ルモノトス

三 職域鍛成
一般鍛成ノ外特ニ責任觀念ノ涵養職域奉公觀ノ徹底能率増進ニ主眼ヲ置キ官公吏特

殊會社職員其ノ他一般產業従事員ノ日常業務ヲ通ジテノ鍛成ヲ徹底スルモノトス

162

四 婦女子ノ鍊成ニ努ムルニ其ノ體格ヲ強クシテ其ノ精神ヲ充實スルニ努ムルモノトス

國防婦人會女子青年團等ヲ通シ婦徳ノ涵養品性ノ向上ニ努メシムルト共ニ特ニ滿系婦女子ニ付テハ勤勞並ニ衛生思想ノ普及ヲ圖ルモノトス

第二 厚生ノ伸暢

強健ナル國民ヲ育成並ニ快適ナル生活環境ヲ創成ニ努ムルヲ以テ國民鍊成ノ成果ヲ相俟ツテ國家興隆ノ基盤ヲ確立スルモノトス

一 保健衛生ノ普及ヲ期スルニ努ムルモノトス

(一) 傳染病防疫ニ關スル方策ヲ強行シ特ニペスト及結核ノ豫防撲滅ニ努ムルモノトス

(二) 醫療施設ヲ整備擴充シ特ニ醫師ヲ增加醫藥品ヲ確保シ努ムルモノトス

(三) 衛生生活改善ニ努ムルモノトス

(四) 住宅ノ改善ヲ圖ルト共ニ住宅ノ計畫的増設ヲ圖ルモノトス

(五) 我國ノ風土環境ニ適應セル生活様式ノ普及ニ努ムルト共ニ衣食住其ノ他厚生ニ

關スル科學的研究ヲ促進スルモノトス

(六) 舊來ノ陋習ハ逐次之ヲ改善スルモノトス

二二

0881

1228

三 體力增強

(一) 集團的肉體鍛鍊、武道及運動競技ノ獎勵ヲ積極化スルモノトス

(二) 阿片麻藥斷禁ニ付テハ一層其ノ實效ヲ擧グルコトニ努ムルモノトス

第三 勤勞興國ノ實踐

國民皆勞ノ體制ヲ確立シ勞働力ノ自給自足ヲ確保スルト共ニ勞働生産性ノ向上、勞務管理ノ改善ヲ圖リ以テ我國土建設及産業開發ノ飛躍的發展ニ備フルモノトス

一 國民皆勞體制ノ確立

勤勞尊重ノ氣風ヲ作興シ勤勞奉公制ヲ實施スルト共ニ都市浮遊勞働力並ニ女子勞働力ノ活用等ヲ併セ行ヒ以テ國民皆勞體制ヲ確立スルモノトス

二 勞務統制ノ強化

(一) 勞務配置ニ付テハ事業別配置統制ヲ強化スルト共ニ民族別及性別適正配置ヲ考慮スルモノトス

尙男子商業使用人等ノ數ヲ制限スル方策ヲ講ズルモノトス

(二) 勞賃ノ昂騰防止及勞務者移動防止ヲ強化徹底スルモノトス

(三) 技能者ノ登録ヲ整備シ其ノ動員體制ヲ確立スルモノトス

163

8881

1229

三 勞働生産性ノ向上

- (一) 生産方法ノ機械化ヲ徹底セシムルモノトス
- (二) 勞務者ノ技術的訓練ヲ強化スルト共ニ技術ノ改良及優秀技術ノ導入ヲ積極化スルモノトス

- (三) 能率増進ヲ圖ル爲技能競練ヲ積極化スルト共ニ國家的褒賞ノ方途ヲ講ズルモノトス

四 技術者ノ養成

普通技術者及技術工ノ養成ニ付テハ企業體ノ自家養成ヲ原則トシ各企業體ヲシテ積極的ニ之ヲ行ハシムルモノトス

尙之ガ國家教育制度トノ密接ナル結合ニ付特別ナル考慮ヲ拂フモノトス

五 勞務管理ノ改善

- (一) 生産的勞働ノ公共性ニ照應シ勞需物資ノ確保ヲ圖ルモノトス
- (二) 災害防止ノ徹底ヲ期スルト共ニ保健衛生、福祉施設ノ整備充實ヲ圖ルモノトス

164

1230

第四章 經濟綱要

我國ノ東亞共榮圈內於天占ムル地位及其ノ使命ニ鑑ミ日本トノ綜合的經濟關係ヲ基調
トシ産業ノ劃期的開發ニ依ル國防經濟體制ノ完成ヲ期スルモノトシ特ニ先ツ基礎的産業
ノ開發並ニ交通網ノ擴充ヲ重點ヲ指向スルモノトス其ノ普及發展ニ關シテハ

第一 統制方式ノ整頓ニ當リ博學の指導ヲ兼テ之ヲ實施スルモノトス
經濟以機構の國防經濟體制ノ完成ヲ目途トシ計畫的統制經濟ノ原則ヲ以テ之ヲ貫徹ス
ルモノトス
其ノ特殊會社トシテ企業ヲ對スル國家ノ參畫ガ高度ニ要請セラルル事業ニノミ限定ス
第二 統制ノトス

一 統制ニ社主義ハ企業ノ本質上必要已ムヲ得ザルモノヲ除キ之ヲ採ラザルモノトス
二 其統制ニ對スル官民ノ協力體制トシテ特殊會社及統制團體ノ機能ヲ刷新強化シ行政
運營上之ガ合理的活用ヲ圖ルモノトス
三 企業統制ニ付テハ採算性ノ維持經營ノ合理化高能率企業ノ優遇等企業性ノ昂揚ヲ
併ニ考慮スルモノトス

五 統制ノ手段及限界ニ付テハ統制ノ效率昂揚ヲ主眼トシ對象ノ諸性質ニ適應シ效果

四 的且彈力性アル構想ヲ加フルモ以テ之ノ合宜ナル經營全業ノ發展ニ資スルニ

尙統制ノ方法ニ付テハ地域的又ハ職能的集團ノ利用ヲ考慮シ特ニ其ノ自淨作用ヲ助

長セシムルモツト以テ之ノ發展ニ資スルニ

六 統制ニ當リテハ量ヲ増大ニ偏セズ質ノ向上ニ付特別ノ處置ヲ講ズルモツトス

第二 農業

農村振興ニ施策ヲ重點ヲ指向スルト共ニ増産ヲ徹底シ以テ自給自足ヲ確立及自支兩國

ニ對スル食糧並ニ油料農産物ノ供給基地タルノ使命完遂ヲ期スルモノトス

開拓政策ニ付テハ既定方針ニ基キ之ヲ推進スルモ以テ之ノ發展ニ資スルニ

一 農業施策ノ遂行ニ當リ科學的計畫性ヲ徹底セシムルモノトス

二 農業ノ施策ハ先ヅ自興村ニ集注シ之ヲ通ジテ其ノ普及滲透ヲ期スルモノトス

三 農業技術指導網ノ擴充特ニ第三線滿系技術指導員ヲ養成ヲ圖ルモノトス

四 農業經營ノ様式ハ逐次畜力及機械ヲ使用其ノ他新農法段階ニ發展到達セシムル

ノトシ特ニ日本開拓民ニ付テハ其ノ農法改善ニ依リ滿洲農法ノ針路ヲ具現セシムル

モノトス

- 五 水作制度ノ改善其以他耕作安定ニ關スル方途ヲ講ズルモノトス
- 六 未耕地ノ開拓ハ計畫的ニ日本開拓民及國內移民ヲシテ之ヲ遂行セシムルモノトス
- 七 治水水利事業ヲ促進シ耕地ノ積極的造成ヲ圖ルモノトス
- 八 農産物ノ蒐荷ハ國內外ノ要請ニ即應シ需要ノ充足ヲ圖ル爲一層徹底ヲ期スルト共
其ノ方法ニ付テハ更ニ檢討ヲ加ヘ改善合理化ニ努ムルモノトス
- 九 興農合作社ハ之ヲ村單位ニ於ケル農業關係ノ中心體トシテ育成シ生産指導ヲ力ヲ
注ガシタルト共ニ其ノ共同事業的及金融的機能ノ助長強化ヲ圖ルモノトス
- 十 農産開發及農業金融ノ圓滑ヲ圖ル爲農業特殊金融機關ヲ設立ヲ考慮スルモノトス
- 十一 農事試験機關ヲ強化スルト共ニ其ノ活動ヲ適切ニ政策ト照應スル如ク運営セシ
ムルモノトス
- 十二 特別農産物ニ付テハ面積擴張ニ依ル増産ヲ求メズ主トシテ技術改善ニ依ル增收
ヲ期スルモノトス

第三 林業畜産業及水産業ノ發達

- 一 林業ニ付テハ森林資源ノ立地的造成ニ主眼ヲ置キ造林ノ普及徹底ヲ圖リ官行造林
ノ外特ニ民間ニ於ケル造林ヲ積極且全面的獎勵ヲ行フモノトス

二、畜産ニ付テハ防疫ノ徹底ヲ圖ルト共ニ農業經營ノ改良方策トシテ家畜ノ積極的増殖並ニ改良ヲ推進スルモノトシ併セテ飼料對策ノ確立ヲ期スルモノトス

三、水産ニ付テハ自給自足ノ確立ヲ目標トシ特ニ國內淡水漁業ノ開發利用並ニ増殖ニ主力ヲ注グモノトス

第四、鑛工業

一、重工業部門

(一) 重工業ノ劃期的開發ヲ圖ルモノトシ先ヅ專ラ鐵鋼電力石炭輕金屬及非鐵金屬ノ開發ニ最重點ヲ置キ産業ノ將來ニ於ケル飛躍的發展ノ基礎確立ト戰時必需物資ノ需要

充足ノ責務達成トヲ期スルト共ニ逐次化學工業機械工業其他完成品工業ノ確立ニ

移行スルモノトス

(イ) 鐵鋼工業

東亞共榮圈ノ確立上要請セラルル鐵鋼ノ大増産ハ其ノ主要部分ヲ我國資源ノ開發

ニ依存セザルベカラザル必然的事實ニ基キ鐵鋼業ノ飛躍的開發ヲ具現スルト共ニ

特ニ差當リ鐵鋼ノ即效的緊急増産ヲ徹底シ現有設備能力ノ最高率發揮ニ努ムルモ

（イ）トス
 1 鐵鋼業ノ經營形態ハ貧鐵處理ニ依ル鑛石法銑鋼一貫作業ヲ基本トシ逐次特殊鋼業及副産物利用高級化學工業ヲ加フル綜合的經營形態ニ進展セシムルモノトス

2 特殊鋼ニ付テハ其ノ適地性ニ基キ之ガ増産ヲ期スルト共ニ併セテモリブデン、バナヂウム等ノ積極的開發ヲ促進スルモノトス

（ロ）電
 電氣化學工業ノ躍進的開發ヲ目標トシ先行的ニ水力電源ノ計畫的開發ヲ行フモノトス

（ハ）石

1 自給自足ノ確立特ニ鐵鋼業ノ開發ニ即應セル粘結炭ノ自給自足並ニ炭質ノ向上ヲ圖ル爲既開發及未開發ノ優良炭田ノ積極的開發ヲ行フモノトス

2 粗悪炭炭礦ハ漸次之ヲ整理縮少セシムルト共ニ雜小炭礦ニ付テハ其ノ統制ヲ強化スルモノトス

3 炭礦開發ニ付テハ全面的ニ其ノ機械化ヲ促進徹底セシムルモノトス

4 炭質向上ノ爲各種選炭施設ヲ擴充シ強制スルト共ニ炭質ニ基ク合理的價格差
ノ設定其ノ他炭質向上ノ諸方策ヲ講ズルモノトス

5 原料炭ニ付テハ特ニ炭種及品質ノ固定ニ付配給上格別ノ工夫ヲ爲スモノトス

(三) 輕金 屬

アルミニウムニ付テハ礬土頁岩法ニ依ル生産ヲ基本トシ必要ニ應ジボーキサイト

法ニ依ル生産ヲ併セ遂行スルモノトス

(ホ) 非鐵金屬

鉛及亞鉛ノ積極的増産ヲ圖ルト共ニ特ニ銅ノ速急ナル開發ヲ推進スルモノトス

(二) 重工業部門ニ付テハ右ノ外特ニ左ノ諸項ニ付考慮ヲ拂フモノトス

(イ) 兵器工業ハ國防上ノ要請ニ即應シ之方充實ヲ圖リ且其ノ一般産業トノ結付ヲ勘

案スルト共ニ戰時ニ於ケル一般産業ノ兵器工業ヘノ轉換ヲ併セ考慮シ置クモノトス

ス

(ロ) 機械工業ハ鑛山機械製鐵機械電氣機械及農業機械ヲ中心ニ逐次其ノ自給體制ヲ

確立スルモノトシテ

(ハ) 車輛工業ハ自給體制ヲ確立スルノ外更ニ大陸ノ需要充足ヲ目途トスルモノトス

170

(三) 化學工業ハ電氣化學系統ヲ中核トシ其ノ他化學工業系統トノ有機的聯關ニ於テ
逐次其ノ開發ヲ推進スルモノトス

(ホ) 製鹽ニ付テハ對日供給ノ確保及化學工業ノ發展ニ即應シ其ノ増産ヲ圖ルモノトス

(三) 重工業製品ニ付テハ特ニ對日供給ヲ確保スルノ外大陸鄰接地區ニ對スル供給地々

ル事實ヲ舉グルト共ニ其ノ原料資源ニ付テハ自給原料以外更ニ積極的ニ共榮圏内
資源ノ利用ヲモ併セ考慮スルモノトス

(四) 重工業ノ躍進的開發ニ即應シ左ノ施策ヲ講ズルモノトス

(イ) 工業立地ノ具體的決定及之ガ整備ヲ先行セシムルモノトス

(ロ) 現行鑛業法ニ付資源ノ利用開發の觀點ヨリ根本的改正ヲ加フルモノトス

(ハ) 官民技術者ヲ總動員シ賦存資源ノ計畫的綜合的調査ヲ徹底的ニ遂行スルモノトス

輕工業部門及化學工業ニ對シテハ國家自給ニ對シテ重工業並

171 國內原料ニ依ル加工工業ヲ振興スルト共ニ併セテ需要ノ調整ヲ行ヒ可及的ニ主要消

費物資ノ自給自足ヲ確立スルモノトス

輕工業ノ振興ニ當リテハ特ニ國內資本ノ活用ヲ圖ルモノトス

第五 配給

配給統制ハ經濟活動ノ増進及公定價格ノ確保ヲ目途トシ國家目的ニ照應セル重點形成ヲ爲スト共ニ其ノ手續ハ極力之ヲ簡易化スルモノトス

一 物資配給ノ基調ハ商業利潤ノ追求ヨリ國家目的ニ即應スル配給義務ノ遂行ニ之ヲ轉換セシムルモノトス

二 重要物動物資ノ配給ハ現行方式ニ依リ既存一元的配給機關ヲシテ物動計畫ニ即應シ之ヲ行ハシムルヲ原則トス

尙配給機構ノ整備刷新ニ付不斷ノ檢討ヲ加フルモノトス

三 統制配給ハ建設資材原料資材及其ノ他資材別ニ各其ノ用途ノ特性ニ適應セシメ特

ニ重要物動物資ニ付テハ物資ノ綜合的効率發揮ニ遺憾ナカラシムル如ク配給方法ノ改善ニ格段ノ考慮ヲ拂フモノトス

四 一般消費物資ノ配給統制ハ主要ナル生活必需物資ニ重點ヲ置キ實施スルト共ニ其ノ配給實施ニ付特ニ國家的見地ニ基ク考慮ヲ加フルモノトス

五 物品販賣業ハ原則トシテ許可制度トスルト共ニ配給段階ノ整理減少ヲ強行スルモノトス

ノトス
六 配給利潤ヲ統制シ之ヲ公定口錢化スルト共ニ併セテ配給業ノ區域的配分ノ適正ヲ期シ且配給業者ヘノ割當基準ヲ能率主義ニ改メ其ノ正常ナル商業性ノ昂揚ヲ促進スルモノトス

七 農村ニ於ケル配給機構ニ付テハ合作社ノ整備ニ即應シ其ノ機能活用ヲ圖ルモノトス
第六 價目ノ格

生産ノ増強及經濟生活ノ安定ヲ確保スル爲價格政策ハ低物價主義ヲ堅持シ價格ノ極力低位ニ之ヲ安定セシムルト共ニ國家的見地ニ基キ物價相互間ノ諧調均衡ヲ得セシムル如ク所要ノ調整ヲ加フルモノトス
一 物價統制ノ基調ヲ生産原價ノ低減ニ置キ特ニ勞賃昂騰ノ防止ニ努メ併セテ流通過程ニ於ケル經費及利潤ノ適正化ヲ圖ルモノトス

二 物資ノ生産原價ニ付テハ其ノ低減並ニ確保ニ付左ノ方策ヲ講ズルモノトス
(一) 原價低減ノ基礎ヲ確立スル爲統一原價計算制度ヲ創設スルモノトス
(二) 原價ノ低減ニ付テハ特ニ能率ノ増進及總體費ノ節減等經營ノ合理化ニ重點ヲ置クモノトス

尙建設費ノ低減ヲ圖ル爲土建統制ヲ強化スルモノトス

三四

(三) 對日關係物資ノ原價ニ付テハ合理的比較基礎ニ於テ日本ノ價格水準ト同視ナラシムルガ如ク考慮スルモノトス

(四) 尙原價切下ニ於テ企業ノ自主的措置ヲ超スル分野ニ付テハ行政的處置ヲ施スノ外異特ニ經濟平衡資金制度ヲ活用スルモノトス

尙價格補償ヲ爲シ財政的處置ハ原則トシテ之ヲ行ハザルモノトス

三、配給機關ノ收買價格ハ適正原價主義ニ依リ企業別複數價格ヲ認ムルモ販賣價格ニ

付テハプール平準制ヲ原則トスルモノトス

四、尙特定生産物資又ハ主要消費物資ノ販賣價格ニ付テハ國家的見地ニ基キ複數價格制

ヲ採用スルコトアルモノトス

五、物價ノ統制ニ當リテハ質及量ノ低減ニ依ル實質價格ノ昂騰防止ニ付特別ノ對策ヲ

講ズルモノトス

第七、圓金且圓融活ハハ適當基準ノ維持ヲ要ス

一、圓元等價主義ヲ阻害スベキ諸因素ハ之ヲ芟除スルモノトス

二、國內資金ノ生産部門ヘノ動員及配分ヲ徹底スルト共ニ投機及商業部門ヘノ過當投

175

資ヲ抑制シ浮動購買力ヲ吸收ヲ圖ルモノトス

三 國債消化及貯蓄獎勵ノ積極化方策ヲ講ズルモノトス

四 證券市場及國內金融機關ヲ育成整備スルト共ニ土著資本ノ活用ヲ圖ルモノトス

五 中央銀行制度ニ改善ヲ加ヘ其ノ國家的機能ヲ強化スルモノトス

第八 交通貿易

對日及對支計畫交易ノ完遂ヲ圖ルト共ニ其ノ他共榮圈内各地域及樞軸國間トノ貿易ヲ

併セ振興スルモノトス

第九 交通

各種交通施設ノ有機的連繫アル整備擴充ヲ行ヒ輸送力ノ綜合的增強ト計畫輸送ノ鞏化

トヲ期スルモノトス

一 陸運

(一) 鐵道

鐵道ヲ建設ハ國防並ニ産業ヲ開發ヲ主眼トシ之ヲ行フモノトシ尙私鐵專用鐵道

ノ敷設ニ付テモ之ガ獎勵ヲ爲スモノトス

(二) 國道

二五

國防産業及開拓ニ必要ナル道路ニ付テハ積極的ニ之ヲ新設スルト共ニ既設道路ニ付テハ其ヲ維持補修ニ努ムルモノトス

尙全國主ニ互ニ逐次自動車用幹線道路網ノ完成ヲ期スルモノトス

(三) 水運

一、水運送施設ノ增強ヲ圖ルト共ニ其ノ統制ヲ強化スルモノトス

二、水運ノ

(一) 各港ノ海運由來ノ水運設備ノ改良及新設ノ促進ニ努ムルモノトス

(二) 國土計畫及交易計畫ニ即應シ港灣ノ積極的整備擴充ヲ行フモノトス

(三) 海運ハ差當リ對日支航路ノ充實ニ重點ヲ置キ可及的速ニ外洋航路ニ付テモ其

機日以發展ヲ期スルヲ共ニ併セテ造船施設ヲ擴充ヲ爲スモノトス

(四) 河川及運河

一、可航河川航路ノ整備充實ヲ圖ルト共ニ南滿工業地區ニ於ケル産業運河ノ建設ヲ考

二、慮スルモノトシテ南滿鐵道ノ貨物運送ノ便利ニ資スルモノトス

三、航路航空運送ノ便利ニ資スルモノトス

國內及對日支各地間航空路ヲ擴充強化ヲ圖ルト共ニ特ニ國內飛行場氣象通信等航空

176

保安施設ノ整備ヲ期スルモノトス

第十 通 信

國防竝ニ産業ノ開發ヲ主眼トシ通信施設ノ整備擴充ヲ圖ルモノトス

第十一 理 水

理水事業ハ防水竝ニ河水ノ效率的利用ヲ目途トシ綜合的計畫ノ下ニ積極的ニ之ヲ推進シ特ニ先ツ遼河水系ニ其ノ重點ヲ置クモノトス

第十二 都 邑 計 畫

立地計畫ニ基キ適正規模ニ依ル都邑計畫ノ確立ヲ期スルト共ニ既存大都市ニ於テハ人口ノ過剩集中ヲ抑制シ且其ノ疎散ヲ行フモノトス

第十三 科 學 技 術

一 科學技術ノ振興ヲ圖ルト共ニ其ノ國家性ニ即應シ科學技術ノ綜合的統制及動員體制ヲ確立スルモノトス

二 廣ク科學技術報國ノ精神ヲ昂揚シ且下共ニ併セテ科學技術尊重ノ氣風ヲ作興スル

四 モ 沙 汰 以 存 一 其 其 普 及 圖 理 水 事 業 之 發 達 以 期 水 利 之 利 用 也

三 國 科 學 技 術 各 種 研 究 機 關 ノ 整 備 擴 充 ヲ 圖 リ 特 ニ 我 國 土 ニ 適 合 セ ル 科 學 技 術 ノ 創 成 ヲ

177

178

期スルモノトス。種々懸隔ノ學識ヲ圖リ、其ノ共同ヲ、應答シ、其ノ對策ノ取極メ、

四、各種規格ノ統一及其ノ普及ヲ圖リ生産能率ノ増進ヲ期スルモノトス

五、現行特許發明制度ニ付發明ノ獎勵及之ガ利用促進的觀點ヨリ根本的檢討ヲ加ワル

特ノトス

科學界ノ進歩ノ速ニ對シテ、其ノ國家ニ對シテ、特許ノ制度ニ對シテ、其ノ改良ノ必要ヲ認メ、

第十、科學界

日本國科學界中ノ懸隔ヲ其ノ統制ノ管ニ付テ、

立憲主義ニ基キ、科學界中ノ共同ノ利益ヲ其ノ保護シ、其ノ共同ノ利益ヲ其ノ促進シ、

第十一、科學界

科學界中ノ共同ノ利益ヲ其ノ保護シ、其ノ共同ノ利益ヲ其ノ促進シ、

科學界中ノ共同ノ利益ヲ其ノ保護シ、其ノ共同ノ利益ヲ其ノ促進シ、

第十二、科學界

科學界中ノ共同ノ利益ヲ其ノ保護シ、其ノ共同ノ利益ヲ其ノ促進シ、

第十三、科學界

科學界中ノ共同ノ利益ヲ其ノ保護シ、其ノ共同ノ利益ヲ其ノ促進シ、